

年間特集

思い出の彗星 [2] 大彗星ウェスト

作花一志（京都情報大学院大学）

とにかくきれいな彗星だった。キザな言い方だが「ほうきに乗った魔女ではなく、長い髪をたなびかせて大空を飛んでいく暁の女神オーロラ」だった。もちろん魔女もオーロラも知らないが。これが私の見たウェスト彗星である。時は1976年3月6日未明、場所は竹林寺山、すなわちOAO 74"鏡のドームの外である。74"鏡で彗星観測をしていたわけではなく、その数年前から、とある銀河の中心域の分光観測、といってもCCDではなくCassIIによるWet Astronomyであるが、をしていた。3月5日の夜はまずまずの観測日和で、空が白んできたので観測を終え片づけに入った時だった。目に入ったのは東の空を覆う大彗星！

実は彗星出現のことは知らなかった。当時ネット情報は存在しないから、新天体ニュースは専ら天文電報（ほとんど死語）に頼っていて、それを見ていなかった。というより正直言ってあまり関心がなかった。惑星とか彗星とか太陽系天体なんてもうほとんど解っているのではないかと、新彗星なんて毎年何個か来るのではないかと、これからは特異銀河の中心核、クェーサーこそ研究の中心にすべきと生意気なことを考えていたものだ。ところが当たり前だが、腕の見えない銀河より尾の見える彗星にほうがずっと見ごたえがある。彗星の光を望遠鏡に通さず、しばらく生の姿をボーッと眺めていた。このとき写真の準備をしていなかったので彗星に姿はエマルジョンではなく網膜に焼き付けた。たしかコマが左に位置し尾は右方に30度いや60度も伸びていたように思える。しかしこれは定かではない、といより逃した魚はなんとやら・・・記憶は増幅され美化されるものだ。今ネットでググると懐かしい彗星写真と再会できるが、

向きは逆で尾はもっと短いようだ。

この日は観測最終日だったので京都に帰って翌日から、三脚・望遠レンズ・SSSフィルムなどをそろえて、何日か近くの公園で待機したが、曇天と寝過ごしでロクな写真は撮れなかった。物的証拠は何も残らなかったが、まあいいか、生で見たんだからと言いついて脳裏にしまいこんだ。女神オーロラは放物線軌道を描くからあの時の来訪は最初で最後であり、私が目撃したのは3月6日だけである。

この前に後にもこんな美しい彗星は見たことがない。ベネット彗星（1970年）が来たころは太陽系天体には関心がなかったし、オースティン彗星（1990）には裏切られた。スリムな百武彗星（1996年）、力強いヘルボップ彗星（1997年）はゆっくり鑑賞したが、女神オーロラにはかなわない。もう死ぬまでこんな大彗星と出会わないだろう、いやあるはずがないと思っていたが、ひょっとしたら今年の12月にはアイソン彗星の雄姿を眺められるかもしれない。満月並みの明るさなんてウソや～と思いつつ、期待はしている。



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%82%B9%E3%83%88%E5%BD%97%E6%98%9F>

（パブリックドメイン）

作花 一志

（編集部注：p.31 に用語解説をしました。）